

今村伝四郎の功績を 後世に伝えるために石碑を建造

武ガ浜波除の完成を祝い、今村伝四郎の功績を称え、後世に伝えるために下田の町の人々が建てた石碑が勲功碑です。武ガ浜波除と時を同じくして完成し、当初は武山(寝姿山)の中腹にあった武山権現の境内に設置されていましたが、後に倒れたままになっていたものを大正3年(1914)、今から105年前に現在は住宅街となっていますが、波除の起点付近(P10参照)に移して再建されました。昭和51年(1976)5月27日に波除と同じく下田市指定文化財に指定されています。

波除の完成と同時に建てられたということはそれだけ下田の人々にとって愛され、尊敬、感謝されていた証拠といえます。



武ガ浜の静かな路地に建つ今村公勲功碑

平成6年の調査で判明。 波除は安政の大地震後に 形を変えた！

稲生沢川河口の埋立地の西側では現在でも浪除けそのものを見ることができますが、途中から国道135号まで至る地域は住宅地となっており、浪除けは地中に埋まっています。平成6年(1994)、下水道工事をする際にこの埋まった部分の調査も併せて行われました。

実は、現在の浪除けは今村伝四郎が築いた当時の姿をそのまま残してはいません。元禄16年(1703)、宝永4年(1707)の2度、大地震と津波によって下田は壊滅的な被害を受け、浪除けも破壊されてしまいましたが、その都度莫大な費用と労力によって修復されました。その後も大雨や暴風雨によって大破してしまったり、一部が途切れてしまうことがありましたが、基本的には今村伝四郎が築いたままの形が保たれていました。

しかし、嘉永7年(1854)の安政東海地震発生後の大津波によって浪除けは完全に破壊し尽くされてしまいました。

17万3千人余りの人手と1900両余りの工費を賭した大工事によって、最初の位置より東側に移された場所を起点としての字形の堤防が築かれ、これが現存する武ガ浜浪除です。

平成6年に調査した箇所は小範囲ではありましたが、埋没した遺構を調査し、全てが石組みではなく、内部は土であることなど、当時の石組みや盛土の工法を推察することができました。

また、途中で修復した跡がないことから度重なる修復によって少しずつ形を変えてきたものではなく、記録のとおり安政東海地震のときに一新されたものであることがこの調査で分かりました。



重機によって波除にかぶっていた土砂を取り除く作業



土砂を取り除いた後に出てきた波除の石積み

※上写真2点は調査後に行われた市道架け替え工事のもの(撮影時期不明)

造船所もあった。 武ガ浜は下田の港文化の集積地

武ガ浜波除に関する出来事を年表にまとめました。

- | | |
|-------------|---|
| 1615年(元和元年) | 大坂夏の陣、豊臣氏滅亡 |
| 1616年(元和2) | 下田奉行所設置、須崎に御番所が置かれる |
| 1623年(寛永4) | 今村伝四郎2代目下田奉行となる |
| 1634年(寛永11) | この頃御番所が大浦に移転される |
| 1643年(寛永20) | 武ガ浜波除工事が始まる |
| 1645年(正保2) | 武ガ浜波除完成(工事費不明) |
| 1703年(元禄16) | 地震大津波で波除が破壊される |
| 1705年(宝永2) | 波除修復。工事費985両余り |
| 1707年(宝永4) | 地震大津波で波除が破壊される |
| 1718年(享保3) | 波除修復 |
| 1721年(享保6) | 御番所が浦賀に移り、下田は代官支配地となる |
| 1734年(享保19) | 大洪水で波除の長さ150間(約273m)余破壊される。 |
| | 同年修復、工事費680両余り |
| 1757年(宝暦7) | 大雨で所々決壊。修復費5両と米1石 |
| 1759年(宝暦9) | 大雨で所々決壊。修復費28両 |
| 1768年(天明6) | 大洪水で波除長さ200間(約364m)が破壊される |
| 1769年(天明7) | 波除修復。工事費835両(川の工事も含む) |
| 1809年(文化6) | 河口工事、石積み工事費併せて478両余り |
| 1816年(文化13) | 大風雨で波除破損 |
| 1818年(文政元年) | 波除修復。工事費199両余り |
| 1830年(文政13) | 河口周辺の工事を行う |
| 1854年(嘉永7) | 11月4日安政の地震、大津波で波除破壊(11月27日安政と改元) |
| 1855年(安政2) | 波除修復(現在の波除はこのときのもの)工事費2,902両1分 |
| 1884年(明治17) | 稲生沢川浚渫工事 |
| 1898年(明治31) | 下田船渠(下田ドック)設立 |
| 1917年(大正6) | 稲生沢川浚渫工事 |
| 1922年(大正11) | 県指定港湾に編入 |
| 1933年(昭和8) | 下田港修築5か年計画開始(下田港周辺、武ガ浜の埋立や道路整備など現在の形に近づく) |
| 1935年(昭和10) | 下田船渠(下田ドック)弁天島付近から武ガ浜に移転 |
| 1950年(昭和24) | 鶴島防波堤延長 |
| 1951年(昭和26) | 内港物揚げ場延長 |
| 1985年(昭和62) | 下田船渠(下田ドック)解散 |
| 1994年(平成6) | 波除調査 |



寛文4年(1664)頃の下田を描いた図。中央白いエリアが武ガ浜



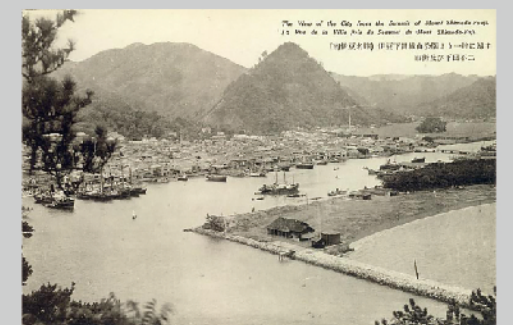
昭和10年に撮影された写真。中央に見えるのが武ガ浜



武ガ浜に1985年まであった下田ドック(中央)

みんなで助け合って生きていく大切さを伝える下田まち遺産

今年(令和元年(2019))は台風15号、19号と立て続けに台風による被害が発生し、山崩れや波に削られて道路等が破損、がれきが浜地にあふれることなどがありました。今回に限らず、災害が発生後、土木工事業者の皆さまをはじめとして多くの方々のご尽力により元通りに暮らせるよう復旧していただいています。安政の地震によって波除けが壊れたときも多くの人の助けによって下田の町は復興しました。「武ヶ浜波除と今村公勲功碑」はみんなで助け合って生きていく、未来につなげていくことの大切さを教えてくれる下田まち遺産です。



昭和10年頃の武ガ浜波除(写真手前)